

ENGINE 12

エンジン No.171
Dec.2014
特別定価
1030yen

巻頭特集

パリとクルマ

—人とクルマと都市のいい関係を求めて—

海外試乗：新型フォルクスワーゲン・パサート／新型フォード・マスタング／新型ボルシェ・カイエン

国内試乗：BMW i8／新型マツダ・デミオ／ロータス・エキシージSロードスター／ミニ・クーパーSDクロスオーバー

比較テスト：ランボルギーニ・ウラカンLP610-4 vs. アヴェンタドールLP700-4

海外レポート：マゼラーティの100年をたどる旅／作家・真山仁、シンガポールF1を見に行く。

クルマは音楽だ！：元ガンズ・アンド・ローゼズのギタリスト、SLASH登場！

ファッション：語れる靴と鞆が欲しい！ 時計：“ジャンル別”最強はコレだ！





学校の体育館よりもさらに大きなスペースには塗装(左)、シャシーのメンテナンス(中央)や、ボディの製作(右)など、クルマを1台作り上げるのに必要なものがすべて揃う。ランボルギーニ400GT2+2をはじめ、納車を待つクルマはどれも一級品ばかり(下)



CARROSSERIE LECOQ

105 Rue Casimir Perier 95870 BEZONS/LA DEFENSE
Tél: +33 (0) 1.34.11.34.11 www.lecoq-carrosserie.com/

場所はパリの環状線から7kmほど離れたセーヌ川の近く。
ルコック=雄鶏を表すニワトリのエンブレムは自動車メーカーのマトラと同じものを許可を得て使用している。



伝統を受け継ぐ工房

1968年にアンドレ・ルコックが興したカロッセリー・ルコックはもとも小さな钣金工場だった。当時はフランスもカロッツェリア全盛の時代で、ボディの架装までは行わなかったが、高級車の修理を数多く手掛け、フランスでは名立たるレストア工房として成長を遂げる。とくにロールス・ロイスやブガッティのレストアでは一目置かれ、バブルの頃には日本からの依頼でロールス・ロイスのレストアを3台ほど仕上げたという。その後、1997年頃にアンドレ・ルコックは引退し、会社は売りに出される。そのとき、現在の24時間以内に钣金修理を完了するというサービスで事業を拡大していたアルバックス・グループが買収し、今に至っている。

事業はマックス・アランナイ氏が率いる新会社へ移行したが、業務内容とその仕事ぶりに変わりはない。今もフェラーリをはじめ、テスラやジャガー、VWのフランスでの公認修理工場に指定されていることからその実力がうかがえるはずだ。

最近、フランスではオリジナルを重視するレストアが主流だという。新車に戻すということではなく、クルマが積み重ねてきた時間を無視することなく綺麗に仕上げるのが好まれるそうだ。そのため、作業方法も最新の技術を投入するのではなく、あえて当時の手法で行うようにしているという。

時代は移っても、技術はしっかりと継承されている。フランスのヴィンテージ・カー事情は安泰のようだ。

